

## 総合リハビリテーションセンターの現状と課題

## 1 総合リハビリテーションセンターの医療提供体制

## 診療科

脳神経内科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、神経・精神科、泌尿器科、循環器内科、麻酔科、歯科

## 定数（主な職種）

医師 20 人、看護師 81 人、理学療法士 20 人、作業療法士 18 人、言語聴覚士 9 人

## 2 県内リハビリテーション病院の状況

- 近年、県内の回復期リハビリテーション病院が増加するとともに、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 を算定している病床数が増えている。

<回復期リハビリテーション病棟入院料を算定している病院>

	H22. 4. 1	H25. 4. 1	H28. 4. 1	H29. 4. 1	H30. 4. 1	H31. 4. 1	R2. 4. 1	R3. 3. 1
病院数	40	45	54	58	60	62	63	65
病床数	2,508	2,748	3,149	3,314	3,380	3,573	3,909	3,977
うち回復期リハ1を算定	1,338	1,344	1,696	2,000	1,549	2,207	2,634	2,951

- 整形外科の手術（人工関節置換術等）は、他の医療機関でも対応が可能となっている。

## 3 総合リハビリテーションセンターの現状

## (1) 患者の状況

## 延べ入院患者数と病床利用率

平成 27 年度まで減少傾向であったが、その後は回復している。なお、令和 2 年度は病棟の一部をコロナ病棟に転換し病床数を減少させたため、入院患者数は減少した。

	H 2 2	H 2 5	H 2 8	H 3 0	R 1	R 2
延べ入院患者数（人）	33,450	28,577	29,149	34,459	34,234	25,874
病床利用率（%）	76.4	65.2	66.6	78.7	77.9	59.1

## 障害原因別入院患者数

医療環境の変化などにより、脊髄疾患（整形外科）患者が減少する一方、脳神経内科疾患の患者が大幅に増えている。

（単位 人）

	H 2 2	H 2 5	H 2 8	H 3 0	R 1	R 2
脳神経内科疾患	49	121	213	239	237	164
脳血管障害	192	129	107	138	130	69
変形性骨関節疾患	76	79	85	135	127	93
脊髄損傷	26	59	15	46	46	37
脊髄疾患	113	12	54	3	11	9
その他	203	136	86	96	92	60
計	659	536	560	657	643	432

## (2) 手術件数の状況

他の医療機関で対応できるようになったことにより、股関節置換術、膝関節置換術、脊椎の手術は減少傾向である

<医科種類別手術件数>

（単位 件）

	H 2 2	H 2 5	H 2 8	H 3 0	R 1	R 2
股関節置換術	54	58	28	24	21	16
脳深部刺激療法	—	—	15	15	12	13
脊椎	40	0	14	0	3	1
膝関節置換術	18	16	2	0	1	0
その他	39	47	30	25	17	23
計	151	121	89	64	54	53

## (3) リハビリテーション提供の状況

- 休日シフトを行うなど勤務体制を工夫し、患者 1 人当たりの提供単位の改善を図っている。
- 令和 2 年度の入院患者に対する理学療法士の疾患別訓練は、主に脳血管障害（25.6%）、骨・関節疾患（23.6%）、神経・筋疾患（15.3%）に提供している。
- 令和 2 年度の入院患者に対する作業療法士による疾患別訓練は、主に脳血管障害（36.9%）、神経・筋疾患（20.2%）に提供している。

<入院患者 1 人当たり 1 日のリハビリ提供単位（平均）> ※1 単位 20 分

	H 2 2	H 2 5	H 2 8	H 3 0	R 1	R 2
回復期病棟（単位）	5.18	5.45	5.73	5.76	6.05	7.56
その他の病棟（単位）	3.05	3.53	3.62	3.59	3.75	4.36

## 4 課題

- 回復期リハビリテーション病院の増加や整形外科の手術可能な病院の増加の中、総合リハビリテーションセンターは従来の医療提供体制を維持しており、他の医療機関との差別化ができていない。
- 民間の医療機関では困難な機能、役割を担う政策的医療を明確にし、限りある医療資源を有効に活用する必要がある。